

散在性ゴミに断を

能登川町

北川つねお (71才)

1 はじめに

私は昨年十一月に大津市で開催された「夢発見エコ」交流事業（平成環境塾）に出席して、貴重な体験発表を聞き、また数々の調査や活動を通じて多くの方が、びわ湖の自然を守り、開発と保全に取り組んでおられることに敬服しました。

そして今回、「明日の淡海」第二号に「散在性ゴミ」考、投棄ゴミはなくせるか、について、その実態、活動、対策等が記述されました。

その文書を拝見させていただきましたので私の考えを述べたいと思います。

2 ポイ捨て平気の環境

朝、目が覚め清々しい気分での前の大通りを見ると、昨日清掃したにもかかわらずタバコの吸い殻、ポリ袋、空き缶、空きビン、時には犬の糞までもが散乱しています。

私の生活しているごく身近でもこの有様です。他にもこのような類似例は数多くあります。例えば湖岸、河川の堤防などにはダンボール、発泡スチロールなど大型ゴミが放置され、公園、駅前広場、空き地などはゴミのポイ捨て場となっています。

このように、各個人が不要になつたものを捨てる行動がポイ捨てであり、そのゴミがどうなるのか本人は全く無関心です。

個人が自分にとって不要となつたものを無意識に捨てるという行為は、最近始まったことではなく国民性なんでしょうか？

「ポイ捨てで、あなたの良心も捨てないで」という自粛標語が泣いています。

ところで一方、「夢発見エコ」交

流事業の事例発表の中に瀬田の或る方は、学校付近で毎日子供と共にゴミ拾いを何十年も続けておられる。また甲賀郡の国道一号線沿いのT陶器社員が国道を清掃されているとの発表には頭が下がるのですが、どうも「あなた捨て役、わたし拾い役」ということになっていて捨て役の人が多く、あまり減量化していないというのが現状です。

こうした社会現象の中で「タバコの禁煙場所」がここ数年間でかなり守られてきているようですが、これは大衆の目による無言の監視や禁煙マークによる啓発運動によるところが大きいと思います。

散在性ゴミ防止対策においても、公共場所での積極的な啓発パトロールを実施し、ゴミ箱の設置には種々問題点もあるようですが、当分の間はゴミ箱の設置を増やし、環境美化に努めることもポイ捨て防止にとって必要なことでしょう。

3 散在性ゴミに断を

散在性ゴミの発生原因というのは、誰が何時捨てたのか分からないのに溜まってくる。この散在性ゴミ防止の最善の方策は急がば回れというように地道な環境教育こ

そ大切なことだと思えます。大人を啓発するのは大変難しい。しかし、昔から三つ子の魂百までとか、親の背を見て子は育つと言われているように、子供に対する躾や環境教育は学校任せではなく、家庭においても積極的に行うべきです。今日の教育は難しい学問的な知識教育は出来ているかも知れないが、いわゆる人間造り、生活上の常識というかモラルの教育が出来ていない傾向にあるのではないのでしょうか。最近の社会情勢を見ているとこのことがつくづく考えさせられます。

4 幼い頃

少々横道にそれたかも知れませんが、結論は生活の基本的習慣として幼い時から何事も実践させ、体得させることが暮らしの中での人間造りだと思えます。

このようにして育てられた子供達は、きつと意識を持って行動できる人となり、環境問題に対しての大切さが理解できる人になるのではないのでしょうか。

幼い頃からの「家庭における躾」こそ散在性ゴミを防ぐ最善の方策だと考えますが如何でしょうか。